YAMAHA

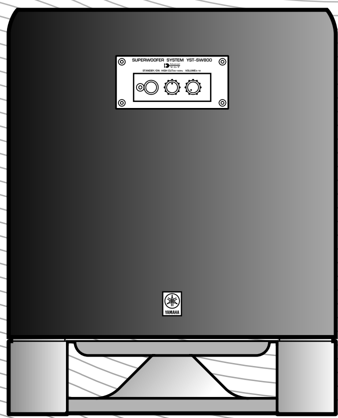
スーパーウーファーシステム

YST-SW800

取扱説明書

ご使用の前に必ずお読みください。

このたびは、ヤマハスーパーウーファーシステムYST-SW800をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
YST-SW800の優れた性能を充分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、この取扱説明書をご使用の前に、必ずお読みくださいますようお願いいたします。
お読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。



保証書の手続きを

お買い求めいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きをおこなってください。
保証書に販売店名、購入日などがありませんと、保証期間でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくことがありますので、十分ご注意ください。

目次

安全上のご注意

この「安全上のご注意」に書かれている内容には、お客様が購入された製品に含まれないものも記載されています。

●ご使用の前に必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みになり、正しくお使いください。またお読みになったあと、いつでも見られる所に必ず保存してください。

●この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

△ 記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

- ●本機に水を入れたり、ぬらさないようにご注意ください。またぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。火災・感電の原因となります。
- ●本機を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続したり、表示された電源電圧交流100V以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- ●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
- ●風呂場で使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- ●本機を水滴などが落ちる場所に設置しないでください。火災・感電の原因となります。
- ●本機の上に水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となったり、ケガをする恐れがあります。
- ●本機の上に陶器やガラス類などを置かないでください。振動により落ちたり、倒れたり、割れたりすると、ケガをする恐れがあります。
- ●本機の上に火のついたローソクなどを置かないでください。火災・感電の原因となったり、火傷をする恐れがあります。
- 分解禁止 ●キャビネットをあけたり、分解したりしないでください。感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
- 分解禁止 ●本機を改造しないでください。火災・感電の原因となります。
- ●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
- ●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- ●万一機器の内部に水や異物が入った場合は、まず電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- ●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。
- ●万一、本機を落としたり、損傷した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損傷のみの発生が想定される内容を示しています。

- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 加湿器を使用する場合は、本機との間に十分なスペースをとり、加湿しすぎないようにしてください。結露すると、本機が故障するだけでなく、火災・感電の原因となることがあります。
- ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本体右側にあるポート（穴）のそばには割れやすいものなどを置かないでください。ポートからの空気圧により倒れたり落ちたりして、けがの原因となることがあります。
- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- 直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。部品に悪い影響を与え、火災の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。（必ず電源プラグを持って抜いてください。）
- 本機を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から20cm以上、背面から20cm以上のすきまを開けてください。
- 移動させる場合は、本機背面の主電源スイッチを切ってから電源プラグをコンセントから抜き、本機と接続した外部機器のコードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
- 本体右側にあるポート（穴）に手やものを入れないでください。また、ポートに手をかけて本機を移動したりしないでください。本機の故障やけがの原因となることがあります。
- 接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。
- 電源プラグを接続する前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。本機が発熱し、火災の原因となることがあります。
- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 1年に一度くらいは内部の掃除を販売店にご相談ください。本機の内部にほこりのたまったまま、長い間掃除しないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

使用上のご注意

ご使用になる前に、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 本機のつまみ類に無理な力を加えたり、キャビネットに重い物をのせないでください。
- テストディスクや電子楽器の信号、極端に歪んだ信号を大きな音で鳴らさないでください。本機の破損の原因となります。
- 本機は防磁設計となっていますがコンピューターのモニターやテレビの近くに設置すると、画像が歪むことがあります。そのような場合は、離してご使用ください。
- 故障と思われるときはただちに使用をやめ電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本機の超低域再生による振動の影響で万一テレビの画像が歪んでしまうような場合は、本機をテレビから離して設置してください。
- フロッピーディスクやカセットテープなどの磁気媒体を近くに置かないでください。データーが破損することがあります。
- 本機を過度の大音量で使用したとき、瞬間的な負荷により、家庭内のブレーカーが落ちてしまうことがあります。そのような時には、本機の音量を下げて使うか、家庭内の不要と思われる電気機器の電源を切ってお使いください。
- **お手入れには**

  ふつうの汚れは、軟らかい布で軽く拭き取ってください。汚れがひどいときは、水で薄めた洗剤を布にふくませ、よくしぼって拭き取ってください。そのあと、乾いた布で仕上げてください。

  ベンジン、シンナーなどで拭いたりすると、変質したり、塗料が剥げることがありますので使用しないでください。また、接点復活剤はご使用にならないでください。

特長

● 豊かな重低音を再生する、アドバンスド・ヤマハ・ アクティブ・サーボ ・テクノロジー 搭載

● 本機の電源を自動でオン／スタンバイ

オートスタンバイ／感度スイッチの設定により、本機の電源を自動でオン／スタンバイできます。電源スイッチを押す手間が省けるだけでなく、省エネにもつながります。

● 各種設定により常に最良の重低音を再生

HI CUT（ハイカット）周波数ツマミと位相スイッチの設定により、本機と組み合わせて使用するスピーカーの間の音質バランスを適切に保ち、自然な音のつながりを確保することができます。またソースのタイプに適した低音再生を選択できるバスモードスイッチを装備しています。

Advanced YST（アドバンスド ワイエスティー）

1988年、ヤマハは独自のYST方式により良質でパワフルな低音域の再生を可能にするスピーカーシステムを世に送り出しました。この方式はアンプとスピーカーをダイレクトに近い状態で電気的に接続することでアンプの動作を正確にスピーカーに伝え、かつスピーカーの動作をコントロールすることができます。

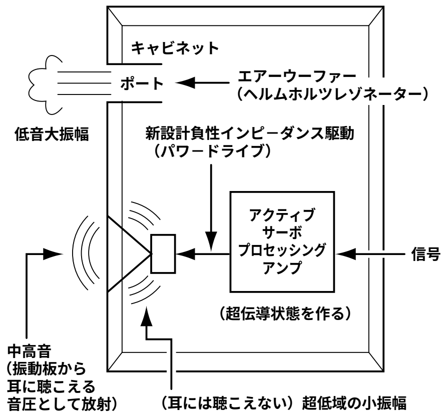
さらに負性インピーダンスコンバーター、N.I.C（Negative Impedance Convertor）によりスピーカーユニットがきちんとコントロールされるので、スピーカーキャビネットの容積とポートとの間で起こる空気共振を高めることが可能になり、通常のバスレフ方式のスピーカーユニットよりも大きな共振エネルギー（エアウーファー）が生み出し可能となります。これにより従来不可能であった、小さなキャビネットから、より低い音まで再生することが可能となりました。

最初にYST方式を提案し、このテクノロジーを使ったスピーカーシステムを世に送り出して10年、ここに新しくヤマハが開発しましたAdvanced YSTは数々の改良を従来のYSTに加え、アンプとスピーカーの接続をより理想的なレベルにするものです。

スピーカーはアンプに比べて小信号入力時と大信号入力時で動作が大きく変化します。このためアンプ側から見たスピーカーの抵抗値（動的インピーダンス）も動作状態によって変化します。そこでスピーカーの動的インピーダンスに応じてN.I.Cを変化させればより理想的なYSTになると考え、数々の試作実験を繰り返した結果、新設計「Advanced Negative Impedance Convertor=A.N.I.C.」回路を開発することに成功しました。これにより従来のYSTに比べて、より動作が安定し、最大音圧が向上し、さらに自然でよりエネルギッシュな低音再生が実現可能になりました。

さらに、このAdvanced YSTはシステムの最適化設定が可能であるため、将来への発展が期待できる「進化するYST」とも言えます。

Advanced YST原理図

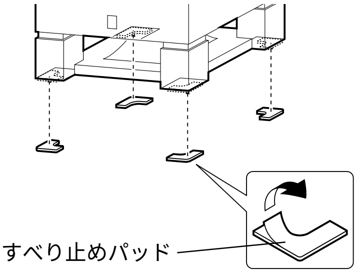


付属品がすべてそろっているか、確認してください。

- **スピーカーコード（4m×2本）**
- **オーディオ接続コード（1ピン、3m×１本）**
- **すべり止めパッド（4枚）**

すべり止めパッド（4枚）の使いかた

固い床の上に直接本機を設置する場合は、下の図のように、すべり止めパッドを本機底面の四隅に貼り付けてください。振動により本機がすべるのを防ぎます。また設置に安定さが増すため、音質の劣化防止にも役立ちます。



本機の置きかた

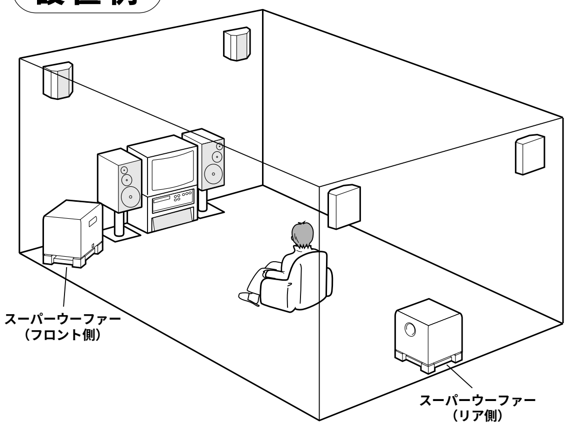
■ フロント側の設置

メインスピーカーの左右どちらかの外側に設置します。壁の反射を避けるため、少し内向きにしてください。低音の聴こえ方はスピーカーを置く位置と、聴く位置の両方に影響されます。いろいろ位置を変えて試聴してください。

■ リア側の設置

映画ソースではリアチャンネル側の低音再生も非常に重要です。フロント側の低音とリア側の低音が再現されると迫力だけでなく、音像や音場感が大きく改善されます。
映画のサラウンド効果を充分お楽しみいただくために、本機をリア側にも追加することをお薦めします。

設置例



設置上の注意

- 本機はパワーアンプを内蔵していますので、背面からの放熱を妨げないよう、壁から20㎝以上離して設置してください。
- 大音量で聴くと、家具や窓ガラスが共振したり、本機自体がビリついたりすることがあります。このような場合には、少し音量を下げてご使用ください。共振防止には、吸音効果が高い厚手のカーテンなどの使用をおすすめします。また、設置位置を変えてみると、共振が起こりにくくなることもあります。
- 本機は、防磁設計となっていますが、万一テレビの近くでご使用になり色ムラが生じたときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。
- 本機の超低域再生による振動の影響で万一テレビの画像が歪むような場合は、テレビと本機の距離を離して設置してください。

メモ

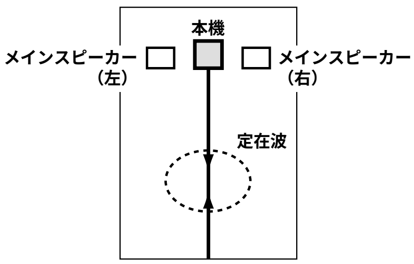
◇超低音域は◇

音楽信号の超低音成分は、波長が長いため、人間の耳ではあまり方向感覚がなく、無指向性に近い特性になります。したがって超低音域ではステレオ感も無くなるため、スーパーウーファーは１台でも超低音再生の効果は得られます。しかし、より一層の臨場感を得るためにはメインスピーカーと同じように、Ｌ，Ｒ２台設置することにより、すべての帯域でステレオ再生されてより豊かな音場再生が可能となります。

◇セッティング時の向きは◇

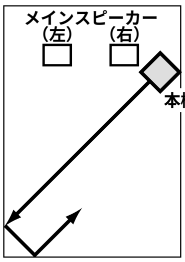
図Ａのように正面に向けてセッティングすると、壁で反射した音が、スピーカーから出てきた音とぶつかり、打ち消し合ってしまい聞こえにくいことがあります。これは部屋の中にできる定在波の影響です。これを避けるために、斜めにセットすると効果的です。（図Ｂ、図Ｃ）

図A



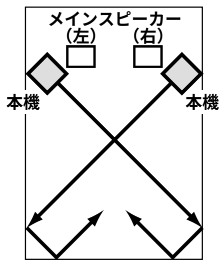
定在波の影響で低音が聞こえにくくなる

図B



本機 1台使用時の設置例

図C



本機 2台使用時の設置例

接続のしかた

正しい接続のために

1 接続をおこなう前に、本機に接続する全ての機器の電源コードをコンセントから外してください。
2 下記の説明に従って、本機と他の機器を接続してください。
3 接続が終わったら、正しく配線されているか、もう一度お確かめください。
4 全ての接続が完了したら、本機および各機器の電源コードをコンセントに接続してください。

注意!

- 接続する機器(アンプ、レシーバーなど)によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- アンプによっては端子の色が異なることがあります。端子の左、右(L、R)や極性(+、−)を確認して接続してください。極性を間違えて接続した場合、不自然な再生音になるばかりでなく、故障の原因となりますので注意してください。

接続のしかたには次の2とおりがあります。

アンプにサブウーファー(スーパーウーファー)出力端子がある場合
……………… P. 6〜7、接続方法 1 参照。

アンプにサブウーファー(スーパーウーファー)出力端子がない場合
……………… P. 8〜9、接続方法 2 参照。

1 本機をアンプのサブウーファー(スーパーウーファー)出力端子に接続する

付属のオーディオ接続コードを使用して、本機背面の**入力2 左／モノ**端子をアンプ(またはレシーバーなど)のサブウーファー(スーパーウーファー)出力端子に接続します。アンプにサブウーファー(スーパーウーファー)出力端子がない場合は、それに代わるライン出力端子に接続します。

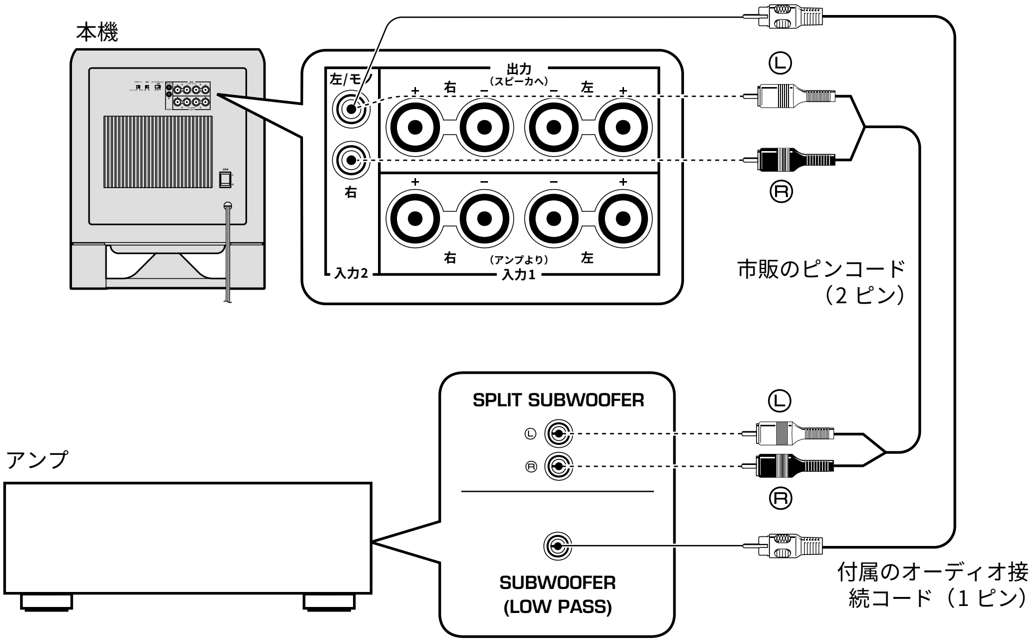
＊ アンプのサブウーファー(スーパーウーファー)出力端子が2チャンネル(Ⓛ, Ⓡ)の場合は、本機の**入力2 左／モノ**端子をアンプ側のⓁ 端子へ、**入力2 右**端子をアンプ側の Ⓡ 端子へ接続してください。

＊ アンプにライン出力端子がない場合は、本機をアンプのスピーカー出力端子に接続してください。
(P. 8〜9、接続方法 2 参照。)

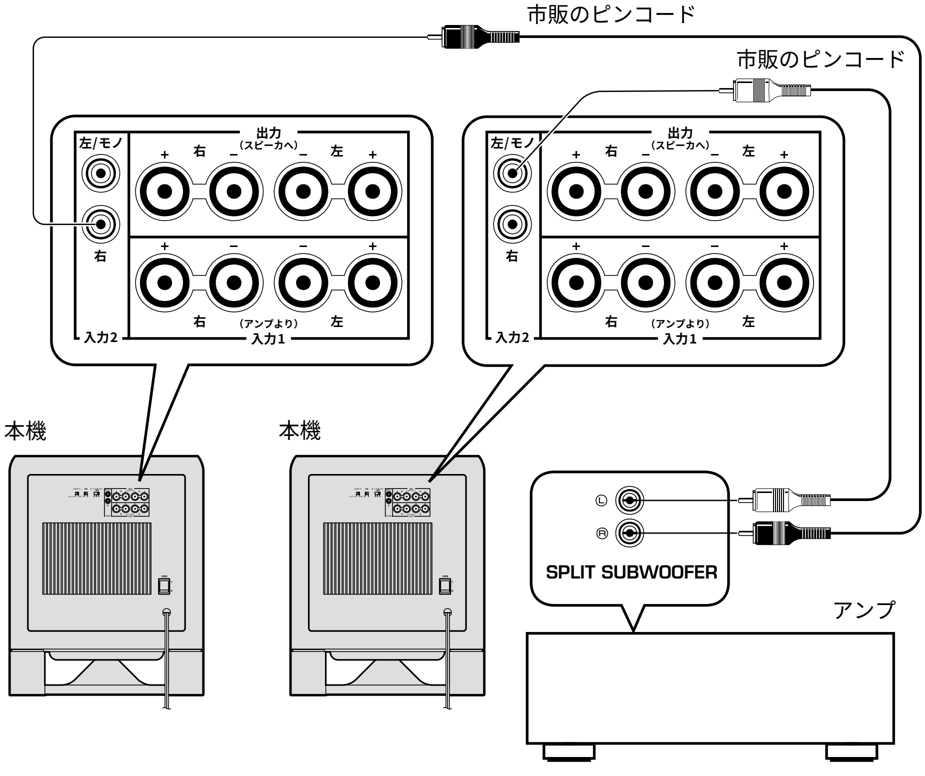
注意!

本機の**入力2 左／モノ**端子および**右**端子に入力した信号は、**出力**端子からは出力できません。

本機を1台使用する場合



本機を左右に2台使用する場合



2 本機をアンプのスピーカー出力端子に接続する

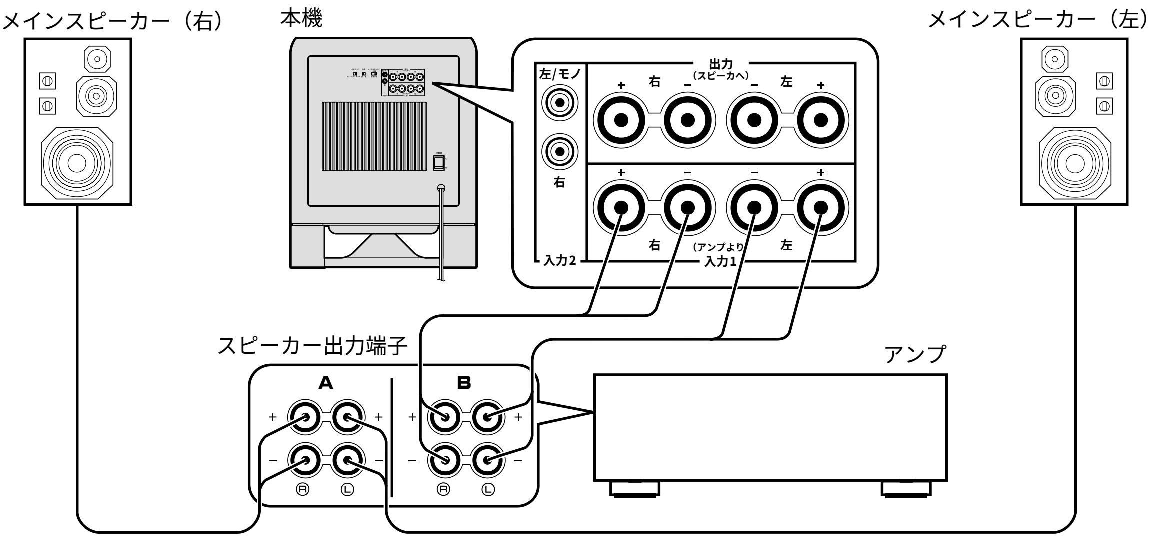
アンプにサブウーファー（スーパーウーファー）出力端子がない場合は、下記の方法で接続してください。

アンプにスピーカー出力端子が2系統あり、2系統から同時出力が可能な場合

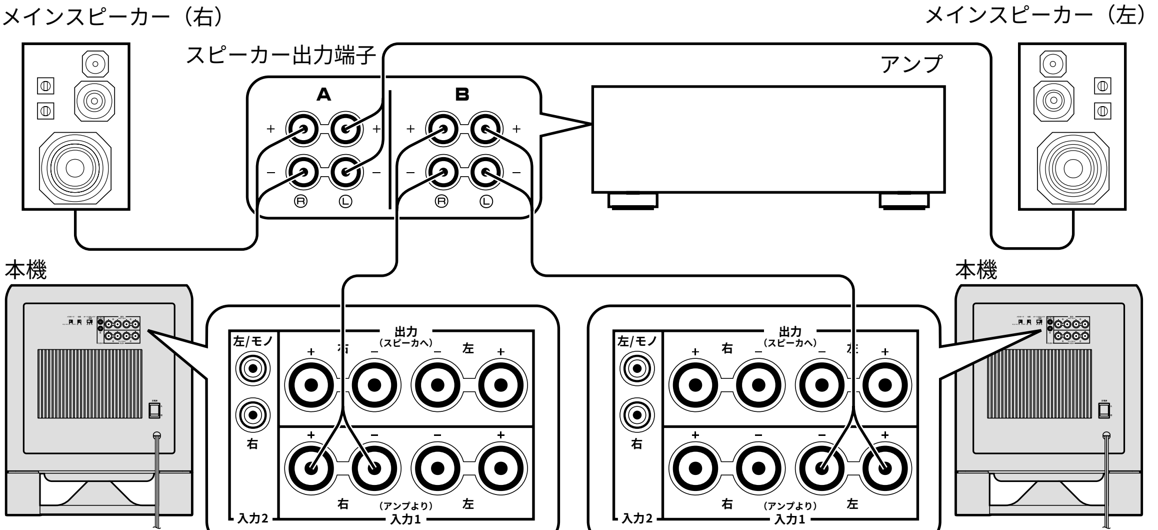
スピーカーコードを使用して、本機の**入力1（アンプより）**端子をアンプのスピーカー出力端子に接続します。メインスピーカーは、もう一方のスピーカー出力端子に接続します。
アンプ側で、スピーカー出力端子2系統から同時出力するように設定します。

＊ アンプにスピーカー出力端子が2系統あっても、2系統から同時出力できない場合は、P. 9、**「アンプにスピーカー出力端子が1系統だけある場合」**の方法で接続してください。

本機を1台使用する場合



本機を左右に2台使用する場合

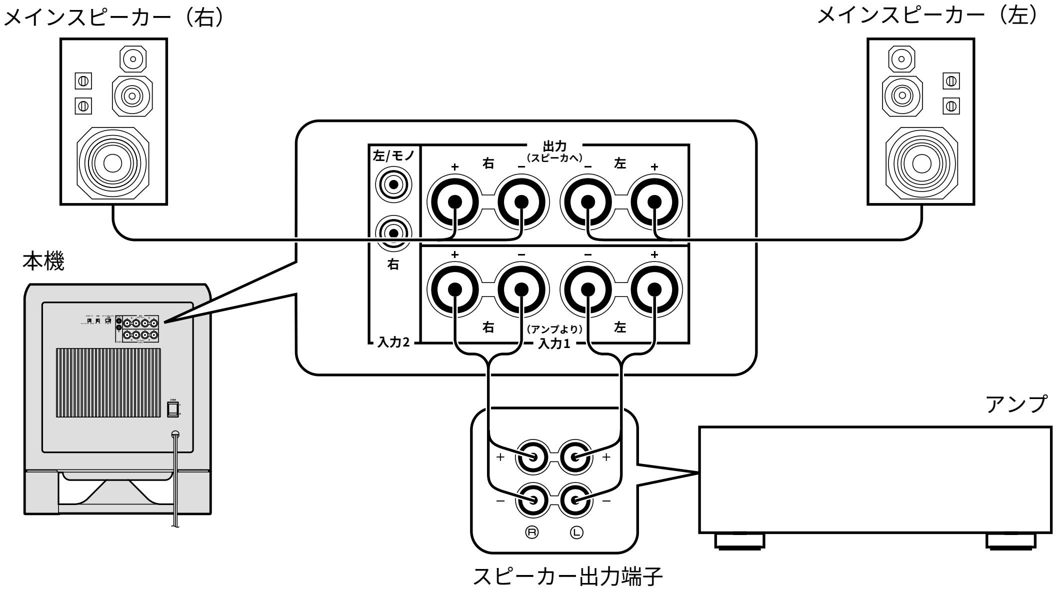


アンプにスピーカー出力端子が1系統だけある場合

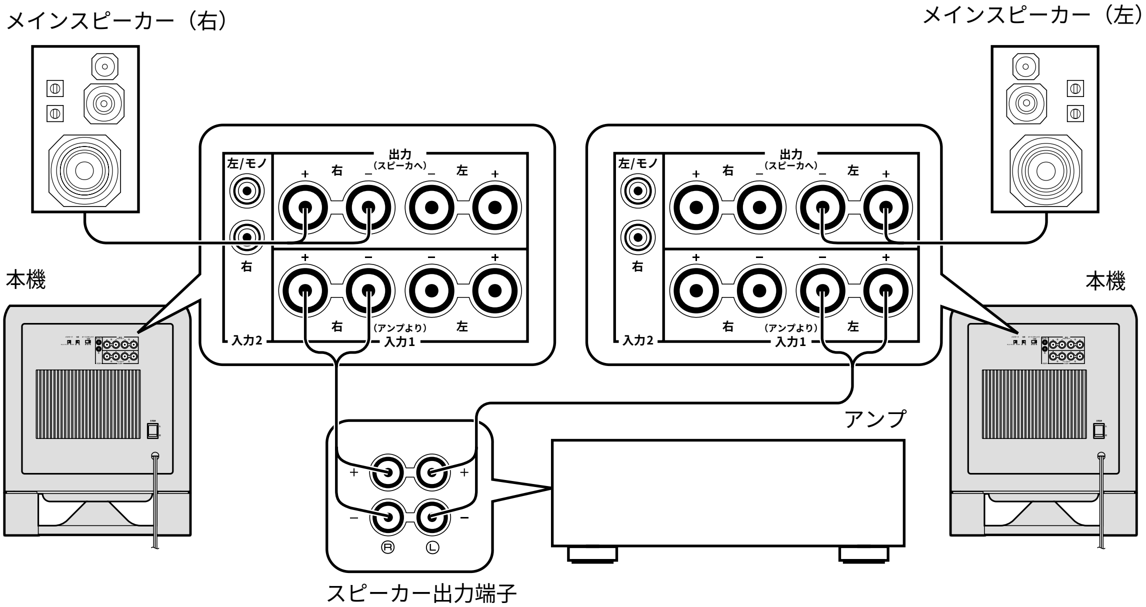
スピーカーコードを使用して、本機の**入力1（アンプより）**端子をアンプのスピーカー出力端子に接続します。メインスピーカーは、本機の**出力（スピーカーへ）**端子に接続します。

＊ メインスピーカーは本機を経由しての接続となりますが、音量、音質に影響を与えることはありません。

本機を1台使用する場合



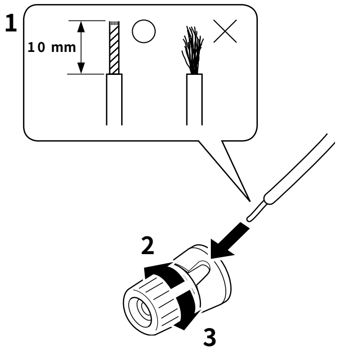
本機を左右に2台使用する場合



接続のしかた

入力1／出力端子へのスピーカーコードのつなぎかた

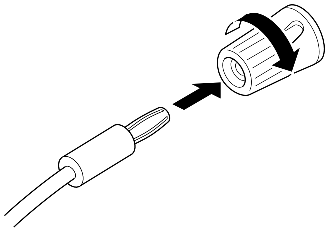
1 スピーカーコードの先端の絶縁部を 10 mm 位はがし、芯線がバラけてショートしないよう、指でしっかりよじります。
2 端子を左に回してゆるめ、スピーカーコードをスピー端子の穴に差し込みます。
3 端子を右に回して締めつけます。
芯線部分が穴からはみ出ていないかどうかを確認してください。



接続が終わったら、スピーカーコードを軽く引っ張り、確実に接続されているか確認してください。

バナナプラグの場合

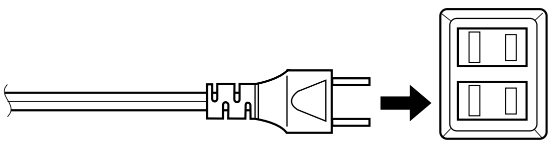
バナナプラグを使用する場合は、端子を強くしめてから差し込んでください。



電源プラグの接続

電源プラグの接続は、本機とその他の機器の接続が全て完了してからおこなってください。

電源プラグは AC100V, 50/60 Hzの家庭用コンセントに接続してください。
本機の消費電力は185W です。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音が変わることがあります。お好みの向きで接続してください。

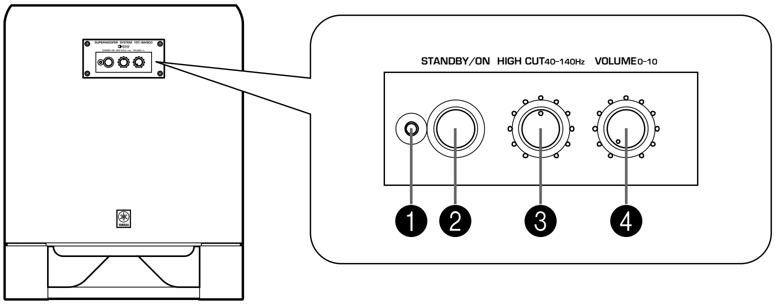


注意!

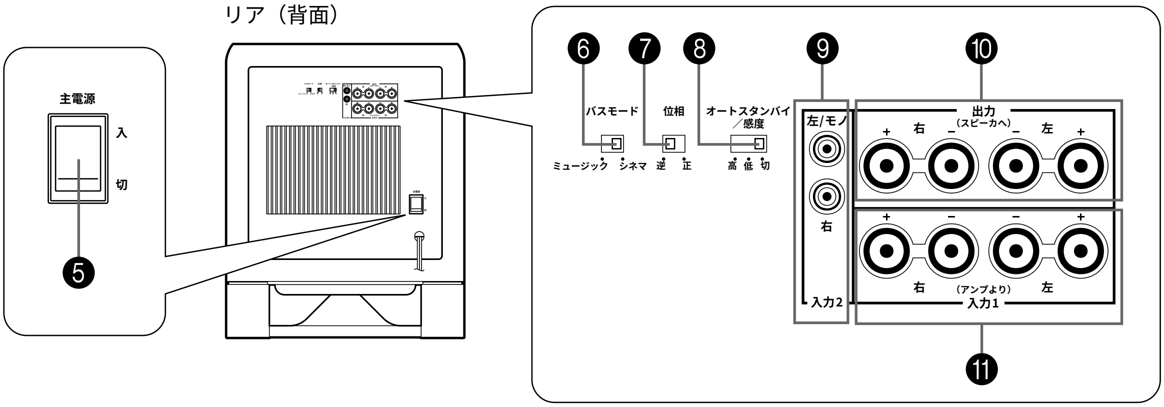
- スピーカーコードはプラス（+）とマイナス（ー）を間違えないように接続してください。
- スピーカーコードはプラス（+）とマイナス（ー）がショート（接触）しないように、しっかりと差し込んでください。しっかり差し込まれていないと、音が出なかったり、雑音が出たり、スピーカーをいためる原因となります。
- スピーカーコードは芯線部分だけを端子の穴に接続します。コードの絶縁部分（ビニール）まで差し込むと音は出ません。
- スピーカーコードは手や足に引っかけないよう、固定してください。

各部の名称とはたらき

フロント（前面）



リア（背面）



❶ **インジケーター**
電源を入れると点灯します。

❷ **スタンバイ／オンスイッチ（STANDBY/ON）**
スイッチを押すと、インジケーターが点灯し、電源が入ります。スイッチをもう一度押すと、電源が切れます。

❸ **ハイカット周波数ツマミ（HIGH CUT）**
カットする高域の周波数を調節するツマミです。組み合わせるスピーカーや好みに合わせて調節します。

❹ **ボリューム（VOLUME）**
本機の音量を調節するツマミです。
右に回すと大きくなり､左に回すと小さくなります。

❺ **主電源スイッチ**
通常は｢入｣にしてお使いください｡しばらくの間使用しない場合は｢切｣にしてください。

❻ **バスモードスイッチ**
音源ソースによって適切な低域特性を選択します。

❼ **位相スイッチ**
通常は｢逆｣側に設定しますが、組み合わせるスピーカーや設置場所によっては、｢正｣側の方が低音域再生が良好になる場合があります。試聴を繰り返して、最も好ましい低音域再生になる方を選んでください。（P. 13参照）

❽ **オートスタンバイ／感度スイッチ**
オートスタンバイ機能の入／切および感度を切り替えるスイッチです。
オートスタンバイ機能をはたらかせる場合は、｢低｣または｢高｣にします｡（P. 12参照）

❾ **入力端子【入力2】**
アンプのサブウーファー（スーパーウーファー）端子またはアンプのライン出力端子（PRE OUTなど）からの信号を入力する端子です。

❿ **出力端子【出力】**
⓫の入力端子**【入力1】**へ入力された信号をそのまま出力します。
メインスピーカーを接続する端子です。

⓫ **入力端子【入力1】**
アンプのスピーカー出力の信号を入力する端子です。

オートスタンバイ機能をはたらかせる

オートスタンバイ機能は、使用中にアンプからの信号がなくなると自動的に本機をスタンバイ状態にし、再びアンプからの信号を検出すると自動的に本機の電源を入れる機能です。

オートスタンバイ機能は、**オートスタンバイ／感度**スイッチ(❽)が「低」または「高」の位置のとき、下記のようにはたらきます。（通常は「低」の位置にします。）

アンプからの入力信号[※1]がない状態が**7〜8分**[※2]続くと、自動的に電源が切れ、スタンバイ状態になります。
＊**インジケーター**(❶)が緑から赤へ変わります。

↓

再びアンプからの入力信号[※1]を受けると、自動的に電源が入ります。
(**オートパワーオン**)
＊**インジケーター**(❶)が赤から緑へ変わります。

メモ

- オートスタンバイ機能は**スタンバイ**／**オン**スイッチ(❷)が「入」になっているときにはたらきます。
- オートスタンバイ機能は、ある一定レベルの信号の有無により動作します。通常、**オートスタンバイ**／**感度**スイッチ(❽)は「低」の位置で使用しますが、電源の入／切が切り替わりにくい場合は、「高」に切り替えてみてください。「高」にしても改善されない場合は、アンプ側の出力レベルを少し上げてみてください。
- 使用する環境によっては周辺機器からノイズなどの影響を受け、オートスタンバイ機能がはたらいてしまうことがあります。そのようなときは、**オートスタンバイ**／**感度**スイッチ(❽)を「切」にして、**スタンバイ**／**オン**スイッチ(❷)で入／切してください。

重要

※1：**オートスタンバイ機能が感知できる入力信号は、200Hz以下の低音成分(アクション映画の爆発音、ベース、バスドラムの音など)です。**
※2：**使用する環境によっては、周辺機器からのノイズなどの影響を受け、切り替わるまでの時間が変動することがあります。**

注意!

- スタンバイ状態のとき、本機は微量ながら電力を消費しています。長期間本機を使用しない場合は、本機背面の主電源スイッチを「切」に設定するか、または電源プラグをコンセントから抜き、本機の電源を完全にオフにしてください。
- **オートスタンバイ**／**感度**スイッチ(❽)を切り替えるときは、本機がスタンバイ状態(インジケーター無点灯)のときにおこなってください。

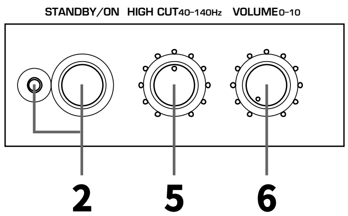
注意!

アンプのトーンコントロール(BASS, TREBLEなど)やイコライザーを最大にして大出力でご使用になったり、市販のテストディスクなどに入っている20Hz〜50Hzのサイン波や特殊な音(電子楽器、レコードプレーヤーの針先のショック音、低音が異常に強調された音など)を連続して大出力で加えることは、スピーカーの破損の原因となりますので絶対に行わないでください。また、低音が異常に強調された特殊なディスクでは、本来の音以外に異音が発生する場合があります。これは、スピーカーユニット自身の限界を越えた“バタ付き”現象で故障ではありません。そのようなときは、音量を下げてご使用ください。

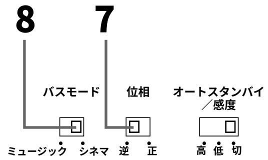
音量バランスの調節

効果的な低音域再生をするためには、組み合わせるスピーカー（メイン）と本機の音が自然につながるように音量バランスを調節する必要があります。接続完了後、HIGH CUT（ハイカット）、VOLUME（ボリューム）、位相、バスモードの調節を行ってください。
一度バランス調節をした後は、アンプ側の音量調節だけで、全体の音量調節ができます。

フロントパネル（前面）



リアパネル（背面）



【調節手順】

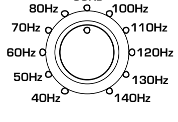
1 アンプの音量を最小にし、アンプおよび各機器の電源を入れます。

2 スタンバイ／オンスイッチを押して本機の電源を入れます。
＊ インジケーターが点灯します。

3 低音を含んでいるソースを再生します。

4 メインスピーカーの音量をアンプで調節します。
通常お聴きになる音量にします。
（トーンコントロールなどは、一旦フラットにしてください。）

5 ハイカット周波数（HIGH CUT（ハイカット））を調節します。
メインスピーカーの最低再生周波数（再生可能な最も低い周波数）のやや高めに合わせてください。
＊ メインスピーカーの最低再生周波数は、そのスピーカーの取扱説明書で調べてください。



1目盛りは10Hzきざみになっています。

6 本機の音量（VOLUME（ボリューム））を徐々に上げていき、メインスピーカーとの音量バランスをとります。
本機がないときよりも若干音が聴こえるくらいにします。

7 自然な（好みの）位相となるように本機リアパネルの位相スイッチを切り替えます。

8 再生するソースに合わせて映画「シネマ」か音楽「ミュージック」に設定します。
シネマ：映画等のソースにて、より迫力のある再生音を楽しむために効果音を補強する機能です。（より厚く、より深い音になります。）
ミュージック：通常の音楽ソースにて、不必要な低音域をカットし、よりクリアな音質を楽しむための機能です。（軽やかに、よりメロディーラインがくっきりとした音になります。）

位相スイッチについて

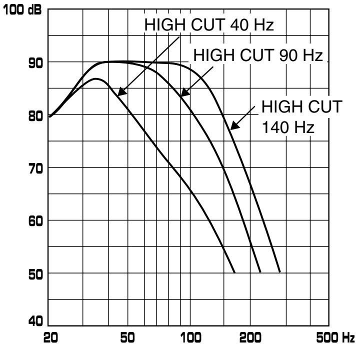
位相スイッチは、メインスピーカーに対して、正相（正）につなぐか逆相（逆）につなぐかを切り替えるスイッチです。

切り替えることによって、音の雰囲気が変わることがあります。あくまでも聴感的ですが、正相でつなぐか逆相でつなぐかによって、低音ばかりでなく全帯域にわたって音の拡がりや、しまりが変化し音場感に影響を与えます。メインスピーカーの種類（密閉型かバスレフ型）や設置状況によってそれぞれ異なりますので、セッティングの際に、正相／逆相の両方を試聴してみて最も自然な再生音になる方を選んでください。

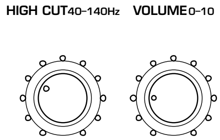
音量バランスの調節

本機の周波数特性と調節例

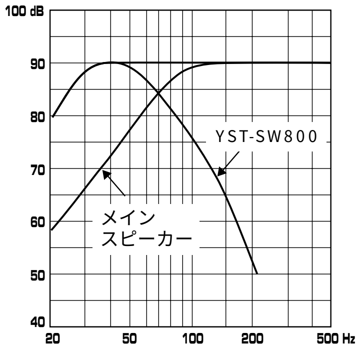
ハイカット周波数、音量、位相の調節は、組み合わせるスピーカーや設置状態、リスニングポジション、再生するソース、音量バランスなどの条件によって異なります。下記は、口径10～13cmまたは20～25cmのスピーカーシステムと本機を組み合わせた場合の総合周波数特性、そしてそのときの各ツマミの調節位置の一例です。スピーカーシステムの低域特性は、口径の大きさ以外の要素によっても異なりますので、あくまでも参考にしてお手持ちのスピーカーシステムとの調節を行ってください。



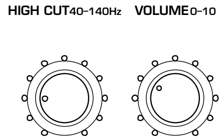
● 口径10～13 cmスピーカー（2ウェイ型）との組み合わせ例



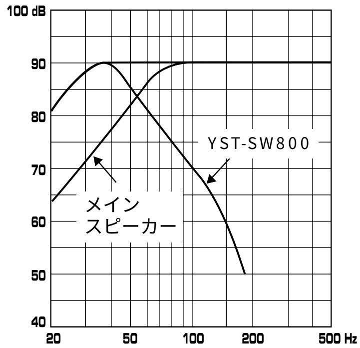
位相は「逆」



● 口径20～25 cmスピーカー（2ウェイ型）との組み合わせ例



位相は「逆」



仕様

型式	アドバンスド・ヤマハ・アクティブ・サーボ・テクノロジー方式
スピーカーユニット	25cm コーン、防磁型
アンプ出力	800W (100 Hz, 6Ω, 10% T.H.D.)
入力感度	
入力1	2.0V (50 Hz, 40W/4Ω) L+R
入力2	95 mV (50 Hz, 40W/4Ω) L+R
入力インピーダンス	
入力1	4.7 kΩ
入力2	12 kΩ
再生周波数帯域	18 Hz～160Hz (−10 dB)
電源/電圧	AC 100V　50/60Hz
消費電力	185W
待機電力	1.0W
寸法(幅)×(高さ)×(奥行き)	390×482×420mm
重量	24kg
付属品	スピーカーコード（4m）×2 オーディオ接続コード（1ピン、3m）×1 すべり止めパッド×4

＊ 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「高調波ガイドライン」適合品です。

＊「高調波ガイドライン」適合品とは、通産省・資源エネルギー庁の定めた「家電・汎用品高調波抑制対策ガイドライン」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルを考慮して設計・製造した製品です。

故障かなと思ったら

本機が正常に機能しない場合は、下記の表に従ってチェックしてください。表に記載されていない場合、あるいは問題が解決しない場合は、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店またはサービス拠点にご相談ください。

どんな状態ですか	ここをチェックしてください	こうすればOKです
スタンバイ／オンスイッチを押しても本機の電源が入らない。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込みなおしてください。
	本機の主電源スイッチが「切」になっている。	主電源スイッチを「入」にしてください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的に電源が入ってしまう。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	スーパーウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーコードを置く位置を変えてみてください。または、オートスタンバイ／感度スイッチを「切」にしてください。
ソースの再生が終わっても自動的にスタンバイ状態にならない。	周辺機器からのノイズの影響を受けている。	スーパーウーファーを周辺機器から離して設置するか、スピーカーコードを置く位置を変えてみてください。
	オートスタンバイ／感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ／感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
ソースの再生が始まっても自動的に電源が入らない。	オートスタンバイ／感度スイッチが「切」になっている。	オートスタンバイ／感度スイッチを「低」または「高」にしてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー（スーパーウーファー）端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
オートスタンバイ機能が突然はたらき自動的にスタンバイ状態になってしまう。	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー（スーパーウーファー）端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
低音が出ない。または小さい。	低音域が少ないソースを再生している。	低音域が入っているソースを再生してください。または、ハイカット周波数ツマミを右に回して設定値を上げてください。
	定在波の影響を受けている。	本機の設置位置を変えてみてください。
	フェーズ（位相）極性の選択が適切でない。	位相スイッチで極性を切り換えてください。
	アンプのサブウーファー（スーパーウーファー）端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
音が出ない。	接続が正しくされていない。または接続が不完全。	接続を確認してください。
	本機のボリュームが最小（0）になっている。	ボリュームを右に回して音量を上げてください。
	アンプからの入力信号が小さすぎる。	アンプやアンプに接続した機器の音量を上げてください。
	アンプのサブウーファー（スーパーウーファー）端子から信号が出ていない。	アンプのスピーカーモードの設定を確認してください。
本機を使用中に家庭内のブレーカーが落ちてしまう。	本機を過度の大音量で使用している。	本機の音量を下げて使用するか、または家庭内の不要と思われる電気機器の電源を切ってください。

これは電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただけるためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

● 保証期間
お買い上げ日より1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み

- ◆ **技術料** 故障した製品を正常に修復するための料金です。
  技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
- ◆ **部品代** 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
- ◆ **出張料** 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切り後8年(テープデッキは6年)です。この期間は通商産業省の指導によるものです。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 持ち込み修理のお願い
故障の場合、お買い上げ店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へお持ちください。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼なさるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※品番、製造番号はAV製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをお薦めします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

YAMAHA

ヤマハ株式会社
〒430-8650 浜松市中沢町10-1
AV国内営業部 TEL (053) 460－3451
AV･IT品質保証部 TEL (053) 460－3405
住所および電話番号は変更になることがあります。

■ ヤマハAV製品の機能や取扱いに関するお問合せは

お客様ご相談センター
TEL (03) 5488－5500(転送)
FAX (053) 460－2777
住所：〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1
ご相談受付時間 10:00～12:00，13:00～17:00
(土・日・祝日及び弊社が定めた日は休業とさせていただきますのであらかじめご了承ください。)

■ ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問合せは
(ヤマハ電気音響製品サービス拠点)

北海道	〒064-8543	札幌市中央区南十条西1-1-50 ヤマハセンター内 TEL (011) 512 - 6108
仙　台	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター3F TEL (022) 236 - 0249
首都圏	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F TEL (03) 5762 - 2121
浜　松	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内 TEL (053) 465 - 6711
名古屋	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター3F TEL (052) 652 - 2230
大　阪	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内 TEL (06) 6877 - 5262
広　島	〒731-0113	広島市安佐南区西原6-14-14 TEL (082) 874 - 3787
四　国	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内 TEL (087) 822 - 3045
九　州	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092) 472 - 2134

愛情点検

★永年ご使用のAV製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- ● 電源コード・プラグが異常に熱い。
- ● コゲくさい臭いがする。
- ● 電源コードに深いキズか変形がある。
- ● 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- ● 電源を入れても正常に作動しない。
- ● その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

Printed in Malaysia V589120-4